



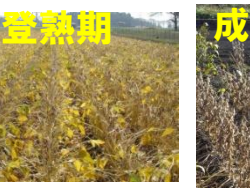



大豆「里のほほえみ」栽培ごよみ

月	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
大豆株の生育	 <p>出芽2週間後</p>			 <p>第4～5本葉展開期</p>			 <p>開花期</p>			 <p>子実肥大期</p>			 <p>登熟期</p>			 <p>成熟期</p>		
	<p>6月17日播種で、8月1日頃開花期、10月19日成熟期(農業研究所圃場・水戸市、過去6カ年平均)</p>																	
栽培管理	← 播種			← 中耕培土			← 病虫害防除						← 収穫			← 乾燥・調製		
	<p>播種適期は、6月上旬～7月上旬です。播種が遅くなると中粒の割合が多くなり商品価値を落とします。</p>			<p>中耕培土は第4～第7本葉展開時に実施します。</p> <p>播種してから3～5日で出芽します。土壌処理の除草剤は、播種後速やかに使用して下さい。</p>			<p>病虫害防除は、開花期10日後から3～4回程度実施します。紫斑病に対しては開花期15日～40日後の防除が効果的です。</p>						<p>コンバイン収穫は、子実水分18%(爪をたてると少し跡が残る状態)以下、茎水分50%以下(手で折るとポキッと折れる状態)を目安に実施して下さい。</p>			<p>乾燥・調製</p>		

高品質安定生産のためのポイント

1) 種子および圃場のしっかりした準備(排水対策など)が安定生産の土台です。

播種前に準備しておくこと

- ①優良種子の確保②ブロックローテーションの実施・連作の回避③圃場の排水性向上(本暗渠および弾丸暗渠・額縁明渠の設置)④有機物の補給 等

2) 適正な施肥量と播種量、播種時期で、十分な生育量を確保します。

- ①10a当たり基肥量の目安(N3kg、P10kg、K10kg)
- ②10a当たり播種量の目安
約4～4.5kg(6月下旬)
約6kg(7月上旬)
- ③播種適期:6月上旬～7月上旬

3) 適正な収穫および乾燥調製作業で障害粒を抑えます。

収穫・乾燥時に発生する障害粒と原因

- ①収穫時:汚粒(高水分時の刈り取り、雑草の残り)
- ②乾燥時:割れ粒(過乾燥)しわ粒・皮(立毛での過乾燥)切れ粒(急激な乾燥)